

新潟県

公民館月報 10

平成14年10月号 通巻第596号



表紙 ふるさとの焼畑で
赤かぶ摘みに挑戦
(山北町公民館)

特集 第43回関東甲信越静公民館研究大会
主要部会概要総括 1

視点 時代が求める地域づくりを
ひろば 「セーフ」の掛け声に思う

サークル交流 両津市絵本サークル二木の会 (両津市公民館)
中之口村書道愛好会 (中之口村公民館)

素顔拝見 山田涼司さん (小千谷市)

沢田 繁さん (名立町)



猛暑の中、事故もなく、皆様から「良かった」と言われ、肩の荷が下りた。

一都十県の公民館状況は、種々異なり一概に言えないが、自戒も含め部会報告にない点を述べ責務の終了としたい。

一、開催地の決定
最初に、県から「朱鷺メッセ(新潟市万代島)」がオープンする来年に、関プロ大会を先送り出来ないか、と打診される。そこで、埼玉県と交替を協議したが、順番どおりの本県開催に決まる。

次に、52万人の県都新潟市が、一同が会する会場、駐車場、実行委員確保の観点で豊浦町と比較、検討した結果、月岡温泉郷に軍配があがった。

二、同一宿泊への不満

私は、全員が一帯に会する「夕食会」の意義と熱き思いから、ランク別のホテル案内はせず、一律方式(泊二食、懇親会付)を試みたが、県外の方には、な

研究大会を終えて

関東甲信越静公民館連絡協議会長 今井昭友

かなか理解されず苦労した。

昨今の研究会はミニ化、宿泊もシングルを希望し、社会教育の原点である連帯感が薄れつつある。

実現のため、先ず、県公連理事會・評議員會等で「新潟方式」を提案、二市北蒲公連理事會に協力要請し、承諾を得る。

また、関プロに理事研修會(H13・11)や決定権をもつ同理事會(H14・2月・5月)の二回を現地会場のホテル華風で開催した。

これは、各県公連で会長、局長の交代が予想されたのも一因だった。こうして、県教委(含む県立生涯学習推進センター、下越教育事務所)、開催地の豊浦町長の全面的な支援のもとに実施へと動き出した。

その中で、歓迎夕食會は六百人の満席、浴衣で越後の地酒、「佐渡おけさ」を満喫していた。だき主催者冥利を味わった。

三、全体會

(一) 一日目の声を拾う

オープニングのコーラスは情感あふれジーンときた。

● ひな壇にズラリとお歴々が

並ばず、同じ目線の式典が良かった。

● 花が大きすぎて登壇者の顔が見えず残念。

● 席表示と移動は見事、流石は公民館人の集いだね。

● 「基調講演」はもっと時間をさいて説明すべき、これを受けての分科会でなかったのかと厳しい指適あり。

(二) 二日目

記念講演と表彰式では物足りない。盛りあがった一日目を受けての共通シンポジウム等を取り入れたら良かったのでは、との意見も出された。

四、分科會

「司會者」は通常、館長等のベテランを起用しているが、一部に若い職員があたり、キャリア不足で迷走した部会もあったやに聞く。

「助言者」も一部で、発表者と間違えられるくらい長時間話をした。話は反対に適切なタイミングでの助言がなくて、参加者から不満も出たとか……。

それにもまして、参加者自身の不勉強さも目立ったという。特に、公連審部会、男女共同

参画社会、人権学習、ITの活用により市町村間の格差が顕著だったようだ。

「要望」として①消化不良の分科会には、おまけの「補習講座」を設ける。②受講は一分科会だけでなく、他の分科会も聴講させる。③二日目に活用するため、全分科会の概要をポスター書きして周知できないか。

また、事務局から、分科会打合せの遅刻者が多く、支障があったので関係者の自覚を望みたい、の苦言もあり。

五、総務、輸送

酷暑での受付、出迎え、お疲れさまでした。受付には、新潟市公連審委員21人のボランティアの協力を頂いたことに感謝とお礼を中ししたい。笑顔が素敵であった。

六、終りに

「新潟方式」を求めた今研究会の中で、参加型分科会や歓迎夕食會を通し、会場の一体化は成功したと思う。

接遇では、ホテル従業員に負けない親切さが好印象を与えたのかもしれない。残すは「報告書」、広報部会の

仕事はまだ続く。資料表紙の「空・ビッグスワン・稲」は素晴らしい、と好評をよんだ。公民館ボランティア渡辺さんのおかげである。十二月にお届け出来ると思うが、この「表紙」にも乞う期待!!
関係各位の皆様 有難うございました。来年は埼玉県で会いましょう!!

『公民館運営審議会委員の手引—改訂版—』完成!!

A4判 68ページ 500円(送料実費)

『全公連50年史』(社)全国公民館連合会

B5判 450ページ 3,000円(送料実費)

新潟県公民館五十年誌

A4判 313ページ 3,000円(送料実費)

第3回生涯学習関連施設職員等 研修会開催

・平14・9・12(木)
・県立生涯学習推進センター



工藤日出夫さんが提起 (生涯学習ゆめ、みらい研究所主宰)

3月20日(木)国立オリンピック記念青少年総合センターで開催された「家庭教育フェスタ2002」で、工藤日出夫さんにバッタリ遭遇、お互い月刊公民館の編集委員ということで本の中味について情報交換。そこへ、県立生涯学習推進センター、五井勇二課長さんが合流、名刺交換となった。

「ユニークでしかも実践家、切り口も鋭いですよ」と工藤さんを紹介。

そんなご縁で今回この研修会講師として来新された由。この間数回にわたって電話いただき、情報交換。

当日の内容も、参会者には耳の痛くなるような例話、そして企画段階から実践・評価に到るまでの体験的な話は説得力十分であった。

仕事の関係で夜の情報交換会に出席できず、とても残念だった。

視 点

「子どもから大人まで楽しく交流できる場を作る。」という願いが発端となり、実現した早通南小学校プールの地域開放。プール開放実行委員会が組織され、小中学生と大人が裸で付き合ひ、楽しく



対話する姿を求めて出発。初年度の平成十二年は、夏休み中の利用者延べ四千二百名。三年目の今年には、六千五百名と地域の皆さんに親しまれている。今年、「プール祭」も開催される。豊栄市は、五中学校区を単位にした地域コミュニティの活動に力を入れている。明るい

時代が求める地域づくりを

会 田 修

「も行われ、中学生、早通地域教育委員会、プール開放ボランティアの皆さんによる出店、西瓜わりコーナーなど盛況であった。校長先生もデジカメでバ

の一例である。

市も地域活性化特別事業費として、各地区にコミュニティバスを配置し、地域振興補助金(一地区二百万円)を予算化した。

各地区公民館は、コミュニティセンターも兼ねており、新しいまちづくり・地域おこしの拠点となっている。

住民自治の確立に向け、合併等に埋没しない地域づくりを着実に進めたいものである。

(豊栄市教育委員会 教育長)

「セーノ」の掛け声に思う

山古志村公民館運営審議会委員 竹田 一夫



当村の伝統的な公民館事業に総合エレクトリ

が地域組織の何代目であるかを自覚させる良い機会となっている。

当村は、コミュニティ活動の推進を柱とし、新しい時代に対応した連帯意識の高揚を図るため、村民主体のイベントづくりを企てている。

お前が居て、俺が居る、「セーノ」の掛け声は、村民が夢を集めて力に変える。そして、豊かに生きていくことへの限りなき挑戦の声でもある。

ひ る ば

集落単位でのまとまりを大切にしながら練習を重ね、「セーノ」の掛け声を出し、他集落と競い、交流している様に、かつて道普請や溝さらい等、くらしの中で組織をつくり、仕事量を成果として評価し、喜び合い、能率の高低に関わらず、心身の疲労を忘れさせる。そんな組織の原点を見た。

一人っ子、二人っ子の多い今、組織の味を知らない子が増えている。このことから本事業は、異年齢での交流をおしり、新しい時代を担う青少年に協力の仕方を学ばせ、それぞれ



研究大会 主要部会概要総括 1



△受付風景

総務部会の概要報告

総務部会部長 田澤公敏

総務部の主な用務は、資料つめと大会当日の参加者一、一〇〇余人の受付です。平成十四年度に入り、その用務を担当する人員・会場などの確保のために今井会長、鈴木事務局長は、四月十八日二市北蒲公連への協力依頼をすばやく開始すると共に、何度も会議を重ねて参りました。

そして、大会前日の資料つめ作業の会場に豊浦町公民館ホールを借用することに決まり、二市北蒲・新潟市職員合わせて二十六人のスタッフも決定しました。次は大会当日の受付スタッフです。茨城大会を参考にすると、スタッフは八十人位は必要でした。

各部会でも必要最低限のスタッフで運営することをお願いして、総務部会も最低人員を二十九人と決定しました。しかし二市北蒲の皆様と新潟市職員合わせて十六人、二十三人も足りません。会議参加者の人達が暗い表情になりかけた時、今井会長の澄

んだ声「そうだ運営審議会委員の人達に受付ボランティアをお願いしよう。私の所にも数人の運営審議会委員の人達から、今回の大会でやれることがあったら言ってくれ、と言われていた。それでやろう。」

感謝、これでスタッフ三十九人の目処が立ちました。八月二十八日、資料つめ当日豊浦町公民館で、細野館長さん篠田副委員長さんが明るい笑顔で我々を迎えて下さいました。きれいに整理されたホールで今井会長・鈴木事務局長から激励の言葉をいただいて、いよいよ作業開始。流れ作業で順調に進んでいきます。

そこへ広報部佐藤豊栄館長さん達も応援に来て下さいました。順調、ちょうど二時になった時、細野館長さんが「研修室にお茶を用意してありますのでどうぞ」との声。冷たく冷えたウーロン茶、お

いしかったです。細野館長様に全員感謝。二時五十分、豊浦町さんの用意してくれたライトバン二台とマイクロスパスでホテル華鳳へ資料を搬入。さあ明日の大会を待つばかりです。

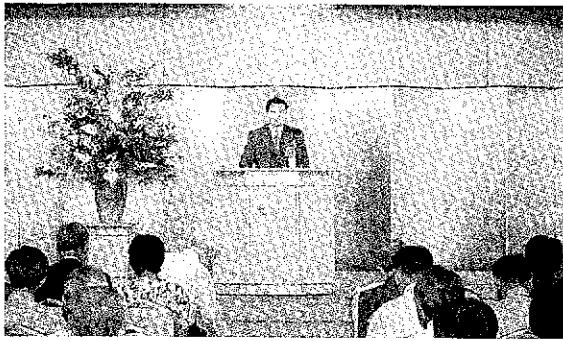
八月二十九日大会当日は、九時集合、打合せ・資料搬入・プラカード担当者の会場確認など、あわただしく時間が過ぎて行きます。九時三十分頃、ボランティアスタッフの運営審議会委員の方々が集合一時間前に数人到着。「もう手伝うことがあればお願いしますよ。」とさっそく受付作業をしていただく。

県内各地の公民館運営審議会委員の皆様は、それぞれ前職が立派なお仕事をされておたり現在も地域で色々な活動をバリバリおやりになったり、まさに地域の宝というべき人材の方々ばかりです。「冷暖自知」という言葉があります。水が冷たいか暖かいかは飲んで初めて分かるように、

仏法の悟りは、人から教えてもらうのではなく、体験して親しく知ることが出来るものである、という意味のことです。仏法の悟りは、体験してこそ知りえるものかもしれません。生涯学習や地域づくり・公民館運営は、このような公民館運営審議会委員の方々から教えを得、共に考え進んで行くことが大切なことだと、公民館運営審議会委員ボランティアスタッフの皆様を拜見して感じたところでもあります。

屋外の暑い中での作業で大変ご苦労をおかけしましたが、受付は順調に進んでおりました。その時、山梨県と埼玉県のバスが交通事情で遅れるとの連絡が入る。事故でなく、少し遅れるということなら一安心。救護班の方には一人の方もお見えに来ることもなく、無事大会を終了することが出来ました。

総務部のスタッフの方々に深く御礼申し上げます。



特集

第43回関東甲信越静公民館

全体会部会の総括

全体会部会副部長 榎谷敏行

であったが、予定より短く終わったため次の記念講演

黄金色の稲穂がゆれる湯煙の町、新潟県北蒲原郡豊

浦町において、第43回関東甲信越静公民館研究大会が盛大に開催された。この大会は、第53回新潟県公民館大会を兼ねていること、また開催県であることから県内の参加者が過半数を占めることとなった。

今回の大会テーマは「公民館の挑戦「学び」から「活動」そして「創造」へ」と設定された。この少し刺激的なテーマが求められた所以は、開会式で基調提案を行った新潟市中央公民館運営審議会副議長雲尾周氏の言葉によれば、「社会の変化激しい現代的要求にこたえるために公民館は、前例踏襲主義に陥ることなく進取の精神で学びを提供し、それを活かして公民館利用者をはじめとする住民とともに活動して、新たな価値を創造していく姿勢を持たなければならぬ」からである。

△基調提案

さらに同氏は、これから公民館が挑戦しつづけ、創造しつづけるための指針として「学び」のみの講座から「活動」、「創造」への発展のためには、公民館職員力量向上、事業評価の改善、人材活用(ボランティアの活用)

を図ること。また、これからの公民館職員に求められるのは、「学び」の中に「活動」を盛り込む力、地域の人材を発掘する力(あるいは任せる力)などであるとし、そのためには参加型学習の様々な手法を身につけたり、地域の人々と積極的に交流することが必要であると言及している。

この大会テーマに基づき展開された十五分科会の詳細は別に譲るとして、ここでは初日の開会式から二日目の閉会式までの全体会を振り返ってみたい。

まず開会式であるが、オープニングは新潟市の「ひなげしコーラス」による「公民館の歌」斉唱と清々しいハーモニーによる「花嫁人形」の合唱で始まった。続いて今井昭友関東甲信越静公民館連絡協議会会長、松下誠全国公民館連合会会長、板屋越麟一県教育長(代理)、南英雄教育次長)の主催者あいさつに始まり、平山征夫県知事(代理)、高橋正樹副知事、関広一県公民館振興市町村長連盟会長の来賓祝辞があり、地元片野秀夫豊浦町長の歓迎のこぼでしめく

られた。その後、前述した基調提案が行われた。この間、約一時間ほどであり、張りつめた雰囲気の中で粛々と進められた。

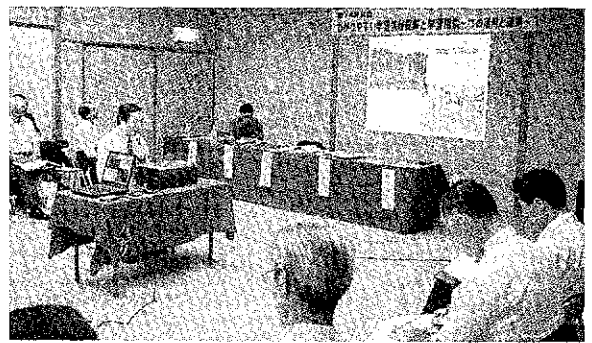
司会進行の平井葉子さんのさわやかな声が会場いっぱい響きわたり、和やかな雰囲気の中で進められた。開会式での会場設営・運営とも準備は順調で支障もなく、円滑に進められたのではないかと思っている。特に、引き続き行われた分科会への移動は、大変効率的かつスムーズに行われたと好評であった。これは全体会会場を県別でなく分科会別に配列し、泉慶会場への移動を考えての方法であったが、これを新潟方式とでも言えないだろうか。歓迎夕食会には一都十県の約六百人から参加いただき、盛大に行われた。祝宴では実行委員が苦勞して集めた地酒でもてなし、お土産に「佐渡おけさ」を覚えてもらった。参加者の満足げな顔が印象的であった。

二日目の全体会は、地元豊浦町小学生による「宝来太鼓」のアトラクションで始まった。息のあった演奏で会場は拍手喝采

を少し早めていただいた。緻密なシナリオ作成と時間配分をしっかりとであったが、本番ではこういうことも起こるのである。前田全体会部会長の適切な対応で事なきを得たが、やや間延びした感拭えなかつた。全体会部会の唯一の反省点である。

続いて、小林達雄國學院大学教授の記念講演が行われた。県立歴史博物館館長でもある同教授は「縄文人の意識改革」と題し、自然との対極としての自己意識の成立と積極的な主張が、巨大な人工的産物の創造につながったとする旨の話しをされた。その後、全国公民館連合会表彰と関東甲信越静公民館連絡協議会表彰が行われ、次期開催地の埼玉県へ大会旗が無事引き継がれて閉会となった。

二日目の全体会では、流れの中でステージ替えが3回もあり、担当者は大変だったと思う。最後に、準備が大変な時間と努力を費やして頑張った、全体会部会係員十七名の皆さんに感謝を申し上げてきとめとする。



分科会部会からの報告

分科会部会部長 青池 真佐子

△分科会発表

分科会参加者、千八十人は、十五のプラカードに導かれて肅々と分科会会場に入っていた。八月二十九日を妙に穏やかな気持ちで迎えることができた。昨年度からのテーマ設定準備まで関わり、まさに「学び」から「活動」そして「創造」へを実践させていただいたことが胸裏をかすめた。

社会教育法は、公民館に地域に根ざした「人々の生活や「まちづくり」に生かす積極的な運営と、「地域及び家庭の教育力の向上」を図る体制と事業の展開を求めている。この状況の中で、しなやかで創造性に富んだ公民館の運営と事業の転換を図っていくことを目標にしてテーマが設定された。

△分科会討議

各分科会の主題の設定や運営の手法については、これまでの分野別・領域別の概論優先から、内容別テーマを具体的に示し、参加者も選択しやすいように工夫した。

テーマは、社会的・時代的に要請され外せないもの、先進的に取組みが必要なもの、住民主

体の実践的な体験事業の重要性などの真剣な論議が重ねられて決定した。

手法については、参加者が三時間を黙って過ごすことで終わらせたくない、一言でも話す機会が持てて、各分科会を創り出す主体者として関われるようにしたいと考えた。その結果がワークショップなどの参画型の方法も取り入れることになった。

また、参加者が和やかな雰囲気の中で研究協議ができるように、導入の段階でアイスブレイクを取り入れた。簡単なゲームや隣の席の人と自己紹介をしたりして、分科会の盛り上げにも配慮をし、新潟流を駆使した。

分科会の担当は、一部九県が一分科会ずつ、当番県の新潟県が五分科会を担当した。

事例発表は、それぞれの都十県の公民館連合会や関係者で選ばれた公民館の事業が発表され、社会教育の新たな視点と実践が色濃く映しだされていた。そして、本大会の主旨でもある「公民館の挑戦」が発表の中で

明らかになっていた。

分科会別の参加者は、二百三十人余り三十人弱と差があったが、参加者の意志を大切に、人数がオーバーで分科会会場に入り切れない一部を除き調整はしなかった。

第十分科会の「完全学校週五日制実施への挑戦」子どもの体験活動、居場所づくりや第七分科会の「総合的な学習におけるネットワーク」学校、地域、公民館」などが時代の要請を受け、学校・地域・家庭のつながりの重要性や、公民館の役割を求められているために参加者が突出して多く、活発な討議や意見交換がなされた。

また、第二分科会の「時代に即応した町村公民館の運営」については、町村公民館が地域を生かし、住民主体でいかに「わが町」を創りあげたのかの発表があり、参加者の関心と注目を浴びていた。

第十四分科会の「分かりやすい学習情報提供と学習相談」ITの活用と連携」や第十三分科会の「だれもが尊重される社

会を目指して「国際理解と人権学習」等は、今後最も必要で、真剣に取り組みテーマではないかと考えられる。参加者が少なかったが意義深いものであった。

今回の分科会の発表は、液晶プロジェクターなどの機器類を使ったところが八分科会で、こんなところにも時の流れを感じた。

ふりかえると、手探りで進めた分科会のプロジェクトスタッフ四人は、よりよい運営を願い、二市北蒲原郡の協力的町村と各機関へ、要領の説明に向いた。いささか勝手な思い込みかも知れないが、分科会の「成功」の理由の一つかなと考えている。

今後は、参画した公民館関係者がこの機会を生かし、更に研鑽を重ねながら実践活動を続けていただけたら幸いである。それが各々の課題をクリアしていく鍵ではないだろうか。

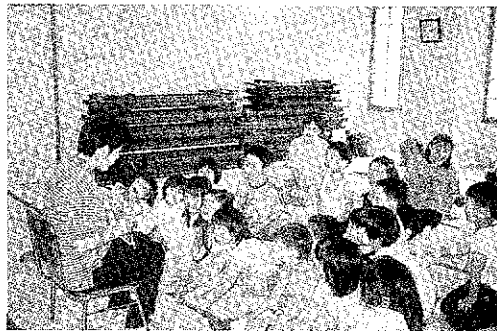
分科会に関わっていただいた全ての方々の協力にお礼と感謝込めて「ありがとうございます」。

サークル交流

絵本をとおして

心豊かな思いやりの
ある子に育てたい

両津市絵本サークル三木の会
子どもにどんな絵本を読んでも
あげたら良いのだろうか？勉強
しようと言う仲間で結成されて
約20年が経つ、絵本サークル三
木の会です。現在15名余りのお
母さん達で活動しています。毎
月第三木曜日に公民館へ集まる
ことで会の名前がつけました。
毎月二冊の課題の絵本を各家庭
で読み直し、その絵本について、
みんなで語り合っています。月



一回の集まりがとても楽しみて
す。今ではグループに分かれ、
毎月市内の保育園や小学校で読
み聞かせのボランティアを行っ
て喜ばれています。両手を広げ
待っている子ども達。キラキラ
した目で真剣に耳を傾ける子ど
も達。見えなくなるまで玄関で
手を振って送ってくれる子ども
達。今私達は読んであげる幸せ
をいっぱい感じて病み付きに
なっています。三木の会に参加
し、すばらしい絵本と出会い、
我が子と一緒に夢の世界に浸る
ことが沢山ありました。その数
は数百冊になります。お母さん
達は声を揃えて言います。この
会に入って良かった。」

（三木の会 橋本 美子 記）

書道サークルの

連合体に期待する

中之口村書道愛好会

中之口村の新春書初大会は、
ことしで十九回を数えました。
主催は、公民館と書道愛好会の
共催でしたが、愛好会は名のみ
で実体がありませんでした。
村の書道をさらに発展させる
ためには、会の実体を作るべき
との意見が大勢をしめ、平成十



一年五月にサークルの主宰者や
書を愛する個人など五十名を超
える方の賛同を得て、書技の研
さんと親睦を目的にして村内書
道の連合体である愛好会として
発足いたしました。

会の主な事業は、①会員展の
開催②文化祭（書道展）の開催
③新春書初大会の開催④研修会
親睦会の開催などです。

会員は、初歩から指導者まで、
若人から高齢者まで、所属する
サークルや会派も異り会の運営
が心配されましたが、お互に理
解し合うことにより和やかな運
営がなされて居ります。

これからは、会員の輪の広が
りの中で、書活動が人生の楽し
みであり生活の潤いになること
を期待して居ります。

（同会 高木 誠 記）

小千谷市社会教育課・公民館

主任 山田 淳司 さん

山田淳司、二十九歳。日本人
の多い名字ベスト3に入ってい
そうなありふれた名字を持つ彼
が社会教育課・公民館に配属に
なったのは、昨年四月。

彼を言葉で表すと、「顔は二枚
目、キャラクターは三枚目。」
「しゃべらなければいい男なの
に」と語る女性職員は多い。



パソコン
に詳しいこ
とから、配
属一年目
で、昨年全

素顔拝見

名立町生涯学習係

主任 沢田 繁 さん

公民館へ社会教育主事として
異動して以来、四年目の夏を迎
えている。家庭にあつては可愛
い一男一女の父親であり、職場
にあつては公民館事業の全ての
牽引的存在である。

彼の最大の強みは、公民館の
前の職場が住民課だということ
もあつてか、町民の顔・続き柄
などをほとんど知っているとい
うことである。まさに、動く「住
基ネットワーク」である。

直接名前で応答するものだけ
ら皆に親しまれ、「沢田くん」「繁



の顔となっている。

また、人脈の広さも武器だ。
スポーツ仲間、IT仲間、飲
み仲間等彼を取り巻く人々は多
彩で、年齢層も幅広い。

町民に親しまれ、期待もされ
ているだけに、エネルギーが
でバイタリティに富む仕事ぶり
である。町の集落のリーダーと
して更なる飛躍を望んでいる。

（公民館長 細谷 純夫 記）

全国各地で火々に行われた「IT
講習」の担当を任せられる。
また、昨年7月7日の七夕の
日に、美人の奥さんと結婚。
公私共に多忙を極めた「激動
の一年」を終え、さらなる飛躍
を期待される二年目の今年。
私生活では奥さんの尻に敷か
れつつ、その三枚目キャラク
ターと仕事に対するひたむきさ
で、小千谷市社会教育課・公民
館が進める「人づくり・まちづ
くり」の中心となって活躍して
くれることだろう。
（小千谷市社会教育課・公民館
町永 竜彦 記）

恵贈資料紹介

滋賀県の公民館

50年のあゆみ



ブロックの枠を越えてA4判、布クロス表紙、カラーグラビア8頁、本文等山頁に及ぶ装丁・内容共に充実した50周年記念誌が、遠く滋賀県公連から恵送されて参りました。

内容は、國松善次滋賀県知事をはじめとする各界からの祝辞・歴代会長からのメッセージ、歴代役員、滋賀県公民館大

滋賀県公民館連絡協議会

会史、表彰にかがやく公民館と職員、平成13年度「滋賀県の公民館」、滋賀県公連の歩み、平成12年度滋賀県公民館実態調査、



滋賀県公民館一覽等、多岐にわたる構成となっております。これだけの内容を記念誌として刊行された滋賀県公連の記念誌編集スタッフに深く敬意を表する次第です。本当にご苦労様でした。

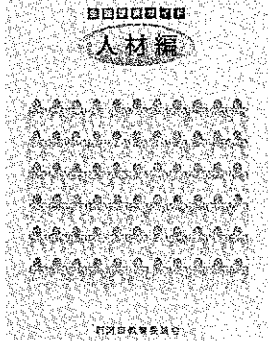
恵贈資料紹介

生涯学習ガイド

人材編

プライベート保護の名の下、指導者名が外に出にくい現状の中、指導者各個人の了承を得て名簿化し、外に出した貴重な学習情報資料です。

掲載の方法は、指導内容分類表に基づき、それぞれの分類ごとに50音順にまとめてあります。分類別は、教育等一般、人文・社会科学、自然科学、産業・技術、文化・教養、趣味、スポーツ・レクリエー



ション、家庭・市民生活、福祉、その他生涯学習プログラム要請講座修了者、地域家庭教育支援者養成事業修了者

新潟市教育委員会

等からなっております。

基華日は、平成13年11月、依頼は直接本人交渉です。

巻末にある索引は、とても使いやすいという面では、工夫されております。

問合せ先 千九五一―八五五〇 新潟市学校町通り一番町六〇二―一 新潟市教委生涯学習課 TEL〇二五―二二八―一〇〇 (内線三二五四、三二五五)

『事務局部総括』その1

・始動

車でも何でも、動き出す時が最大の力が要るといったが、正にそのとおりだった。開催先進県の山梨県、茨城県公連の運営要項を参考にしながら、企画立案していった。

・開催要項案作成

受け身の、何とかうまくやればいい、という発想から脱皮し、新しい世紀の幕開けにふさわしい大会テーマの設定、そして分科会内容としての、という会長の強い意向を受け、新潟市公連中堅係長、主任級で企画・検討

あ と が き

◇吉報・今井昭友会長が、第36回欧州社会教育事情視察団の団長として、11月13日(水)〜22日(金)の10日間、ドイツ、フランス、イタリアの三カ国を訪問されま

表紙解説

ふるさとの焼畑で

かぶ摘みに挑戦

今年も10月19日から11月17日までの毎週土日に、山北町山熊田集落にある生業の里でイベントがあります。赤かぶは8月頃に山を焼き、残った灰に種を蒔き、10月中旬から11月下旬まで収穫されます。(山北町公民館)

協議を重ねた。結果、公民館の挑戦というテーマ設定で、それを受けての分科会も、従来の領域、分野別の設定を止め、課題内容ごとの分科会とした。

・会場地設定 このことについては、会長が触れておられるので割愛するが勇気のいる決断だった。

・総括表送付・振込先 昨年の長野大会で経験済みの一都十県の対応には余り混乱がなかったが、新潟県内市町村の混乱ぶりは、目に余るものがあった。民間委託への不安感か。

◇関プロ大会広報部を中心に、只今その記録集の作成作業に入っております。また、すばらしい冊子ができそうに楽しみです。(鈴木記)

発行所 新潟県公民館連合会 〒951-8053 新潟市川端町2-9・県林業会館内 TEL・FAX (025)224-6073 発行人 会長 今井 昭友 編集人 事務局長 鈴木 友夫 印刷 第1印刷所 〒950-8724 新潟市和合町2-4-18 TEL(025)285-7161 FAX(025)282-1776 【定価1部150円 年共1,800円】